

「大切なモノと私」  
—家族あつての私—

グループ7, 白鳥 舞 (シラトリ マイ)

「あなたにとっての大切な社会はなんですか。」と言われ、初めはピンときませんでした。「社会」がつく言葉はたくさんあります。日本社会、高齢社会、地域社会、社会環境、若者社会、社会文化、情報社会、自然社会、IT社会、社会問題…などです。授業でやりましたが、地球規模であったり、市町村規模であったり、会社規模であったりと社会は様々なところで区切ることができます。

このような話を聞いているうちに、自分に一番身近な社会は「マクドナルド」だと思いました。マクドナルドは私のアルバイト先です。そこでは私よりも年齢が上の人、下の人がたくさんいます。高校生でも、私より仕事ができる人はたくさんいるし、接客のスマートさに尊敬できる場面がたくさんあります。また、バイトをしていると家族連れや高校生、お年寄りなど様々な年代のお客様と関わることができます。小さな子供には、体勢を低くして話しかけ、お年寄りには、聞き取りやすいように大きな声でオーダーをとるといったように、接客の方法を工夫できるようになりました。

しかし、野外学習を2度した後で自分の中で社会の考え方が変わりました。10月31日の1回目の野外学習では、ジョンの寮である「国際交流会館」へ行きました。とても綺麗な建物で過ごしやすそうでした。ジョンの部屋にはいろいろなお酒がありました。名前のお酒も見せてくれました。また、パソコンを開いて韓国でお気に入りの音楽番組を紹介してくれたのですが、日本にはないような番組で面白そうでした。寮に行くと、ジョンの日常生活の一部を少し知ることができました。

そのあと、李英傑（英ちゃん）のバイト先である「CHANBOY'S CAFE」にお昼を食べに行きました。英ちゃんがどんな雰囲気のカフェで働いているのか、英ちゃんと一緒に仕事をしている仲間はどんな方たちなのだろうか、わくわくしながら行きました。行ってみるとお店の人は、素敵な笑顔で迎えてくれました。お店の雰囲気も明るくて、気軽に入れそうな感じでした。また、その日はハロウィンだったのでたくさんのチョコをくれました。みんなでベーグルサンドを買い、食べているところを写真に撮ったり（ベーグルは大きいのでみんなすごい顔でした…）、韓国の話や中国の話を聞いたりしました。楽しい時間はあっという間で、すぐに学校に戻る時間になってしまいました。英ちゃんのバイト先は、ほっこりしていてとても良いところだと思いました。

2回目は千秋公園に行きました。紅葉の時期は終わっていて、少し寂しげな千秋公園でした。韓国では秋が男の季節だそうです。ヨン様で想像したらしくりきて、笑ってしまいました。4人で仲良くベンチに座って、お昼ご飯にしました。晴れていてまったりした時間でした。会話の中で、ジョンも英ちゃんも「お母さんのご飯が食べたい」と言ってい

ました。秋田はとてもいいところだけれど、やっぱり自分の家が一番なのだと思いました。そして、帰る家があり、温かい家族とご飯があることは、ふだんあまり感じないことだけれど、とても幸せなことなのだと感じました。それと同時に、ジョンも英ちゃんも秋田にはあと少ししかいけないのだと思うと、寂しく感じます。

この2回の野外学習で、私にとっての社会は「私の大切な人と私」になりました。本当は「仲間と私」も考えたのですが、どうしても私の社会には家族が必要だったので、少し幅を広くしました。

1回目の話し合いでは、英ちゃんのバイトについて話しました。バイトで得たお金は「日本での生活費の出どころ」とレポートに書いていたので、親に頼らず自分で生活を切り盛りしているのは素晴らしいと思い、そのことを伝えました。すると、英ちゃんのいる寮は月5900円の家賃で、それにとっても助けられていると言っていました。晴喜くんはもっと高いそうであらやましがっていました。実家でぬくぬく生活している自分は、家賃や生活費のことを考えることはないので、2人が大人にみえました。また、中国と日本には物価の差が10倍もあるときき、ビックリしました。600円のラーメンが中国では60円だなんて…。英ちゃんに、仕事の難しさを聞くと接客だと言っていました。様々な人がいるので接客の方法も、言葉遣いも気を付けなければなりません。でもバイトの方はとても優しいそうで、一つ一つ接客のやり方も教えてくれたり（お客さん役もやってくれたらしい）メモを丁寧に書いてくれたりしたそうです。今ではずいぶん接客に慣れたと、英ちゃんは言っていました。また、バイト先の方と「女子会」をするそうです。ただ単にみんなでわいわいご飯を食べるだけでなく、その従業員の接客態度はどうか、店の雰囲気はどうかなどを話すそうです。そして、あれはいい、あれはよくないということを見極め、良いことを取り入れていくのだそうです。みんなでお店を良くしようとする姿勢が素敵だと思いました。それと同時に自分もどこかで見られているかもしれないと感じました。

つぎに千秋公園についても話し合いました。本当のことを言うと千秋公園は私の社会のなかに含まれないなと思い、そのことを言いました。すると晴喜くんが、「そこで家族とか友達と話すこととかがいいんだよね。」と言いました。その言葉で私は「千秋公園自体が社会なのではなく、そこで家族、友達とおしゃべりしたり、歩いたりすることが社会」なのだ気付くことができました。春になると千秋公園は桜で満開。たくさんのお店、たくさんの人でにぎわいます。高校生のころ友達と花見へ行き、お店の食べ物を半分にしながらたくさん食べた思い出があります。最後のしめに、みたらしだんごを食べました。「これこそ花より団子じゃん!!!」と笑いました。本当に楽しい時間でした。他にも、私が受験勉強で疲れていたとき、息抜きに紅葉を見に行こうと家族で千秋公園へ行ったこともあり、久しぶりに自然に触れることができ、気持ちがあすっきりした記憶があります。四季を感じることもできます。千秋公園は大切な「社会を支える場所」でした。

二回目の話し合いではジョンの国際交流会館について話し合いました。その多目的ホールのようなところでは、よくパーティーをしているそうです。写メや動画を見せてもら

いましたが、ゲームをしたり韓国料理のチヂミを食べたりしていました。自分の国から離れて留学しているという同じ環境の仲間がいることも良いことですが、集まってわいわいできる空間も大切だと感じました。でもきっと私なら、1人でゆっくりしたくなる時もあるだろうと思いました。たまに1人になって、自分の読みたい本を読んだり、買い物をしたり、考えにふけったりすることも必要です。

話していくうちに、少しずつ私の社会が見えてきました。今までは大切な人について考えていたけれど、千秋公園や国際交流会館のような場所も、私の社会に含まれているとわかりました。それと、友達、バイトの仲間、家族、思い出の場所など大切な社会はたくさんあるけれど、自分の時間も好きなので、大切な社会の中には「自分自身」も含まれるとわかりました。

ここまで書いてきて、私のなかの社会がどんどん増えてきていることに気付きました。大切な社会はたくさんあっていいかもしれないけれど、私が“特に今”大切にしたい社会は何なのか、もう一度考えてみました。冬休み中は、中学や高校のころの友人が秋田に帰ってきて、懐かしい友人とプリクラをとったり、ゲームをしたり、ご飯を食べに行ったりすることができました。また、アルバイトは週に5回はやっていました。冬休みが明けて、今は大学の友人と学校生活を送っています。

しかし、私の生活に一番欠かせない存在は「家族」だと気付きました。なぜなら、冬休み中も、学校のある日も、どこかに遊びに行ったときも、帰る場所は必ず家で、必ず家族がいて、そこが一番落ち着くからです。年末年始は夜までバイトをしました。くたくたになって家に帰ると、毎年楽しみにしているおばあちゃんが作ったおせち料理がありました。それを食べテレビを見ながら、母やおじいちゃん、おばあちゃん、弟たちと年末を過ごしました。そのとき私は帰る家があって、暖かい部屋があって、温かい家族がいて、とても幸せな気持ちになりました。

最近、母と岩盤浴（熱い床に寝て汗を流すサウナ式のお風呂）に行きました。私の母は看護師をしており忙しいため、なかなか一緒に行く時間が作れなかったのですが、この間ついに二人で行って来ました。とはいっても、母が準夜（夕方16時～夜中1時までの勤務）を終えてからだったので、岩盤浴を始めたのは夜中2時頃です（その温泉は24時間営業）。寝そべりながら、弟の笑い話や母の仕事のこと、バイトでの愚痴、恋愛のこと…ずっとしゃべりっぱなしでした。久しぶりにいろいろなことを話せたと思います。汗を流し、温泉にもつかり、気付いたら3時半。心も体もスッキリさっぱりでした。母は仕事終わりで疲れていたにちがいません。でも私が行きたいといていた岩盤浴に連れて行ってくれました。ありがとう感謝！よく考えたら、あと約3年で卒業し秋田県を出て就職したとしたら、こうして出かけたり、くだらない話をしたり、家族で居間に集まったりする機会は今より減ってしまいます。3年なんてあっというまです…。離れても家族は家族。でもすぐ近くに家族がいるというのは、いつまでも続くわけではありません。だからこそ、近くにいる今の家族との時間を大切にしようと思えました。

この授業を通して、英ちゃん、ジョン、晴喜くんと社会について考えたり、みんなで出かけたり、自分の国のこと好きな歌手のこと地域の祭のこと毎日の生活のことなど、書ききれないくらい話しができました。ふだんの生活で、中国や韓国の人、工学資源の人と関わる機会はないので、新鮮で本当に楽しかったです。英ちゃんもジョンも2月には自国に帰ってしまいます。とても寂しいです。でも二人とも家が恋しいと言っていたので、帰って家族との時間を楽しんでほしいと思います。そのときは、この授業の話も少ししてくれたら嬉しいです。また、この授業のおかげで、自分の周りにはたくさんの大切な社会があることに気付きました。特に今の私にとっては「家族」の存在が大切です。